

「正確に理解する資質・能力」を育む「読むこと」の指導

～説明的な文章を「図式化」する学習活動を通して～

糸満市立三和中学校教諭 當間 沙織

I テーマ設定の理由

中学校学習指導要領（以下、「学習指導要領」と表記する）において、国語科の目標は「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で育成することを目指すことが示されている。

また、中学校学習指導要領解説国語編（以下、「解説国語編」と表記する）では、「正確に理解する資質・能力と、適切に表現する資質・能力とは、連続的に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要である」と改訂の趣旨が述べられ、「正確に理解」、「適切に表現」の順に示されたことから、国語科において「正確に理解する資質・能力」を育成する指導は今後より一層重視されていくと考える。

私自身のこれまでの実践を振り返ると、単元を見通した言語活動を設定し、生徒に読む目的を持たせたり、接続詞や文末表現などに注目させたりして、生徒が主体的に文章を読み正確に理解する資質・能力を育てる指導に取り組んできた。その結果、生徒は目的意識を持って文章を読もうとし、段落ごとの内容を捉えることはできるようになった。しかし、文章を大きな意味のまとまりごとに捉えることや、叙述や描写を基に内容を正確に捉えることには課題がある。実際、単元終了後に学習内容を振り返ったとき、文章の要旨を捉えていなかったり、要約するときに必要な言葉が不足していたりする生徒の姿を見て、指導方法の改善の必要性を感じた。

本校2学年において、昨年度の沖縄県学力到達度調査の大問¹の2「読むこと」に関する観点の問題の正答率は、県平均と比較すると4.2ポイント低かった。その誤答類型からは、目的に応じて必要な情報に注目して読むことに課題があることが読み取れた。また、令和元年度に本校生徒32名に実施したアンケートによると、「好きな文章の種類」で「説明的な文章」を選んだ生徒は3名（9%）と、説明的な文章を好きだと感じている生徒は少なかった。このことから、本校生徒においては、国語科の授業の中で説明的な文章を読む意義や価値を伝えながら、興味・関心を喚起し、内容を正確に理解する資質・能力を身に付けさせる指導の工夫が必要だと考える。

解説国語編では、「情報と情報との様々な関係を図式化するなどして整理することにより、複雑な関係を把握したり自分の思考を明確にしたりすることを求めている」と述べられている。文章を読んで内容を理解するときには、文章の中から適切な情報を選択してそれらを頭の中で整理する必要がある。しかし、文章が長くなればなるほど情報量は多くなるため、それらを的確に整理して内容全体の理解を図ることは難しくなる。そのため、複数の情報がどのような関係で結び付いているのかということや文字や記号を使って図式化することは、「読み」を可視化し情報を整理しやすくするために有効な学習方略の一つであると考える。

そこで、本研究では説明的な文章の指導において、生徒が正確に文章の内容を理解する資質・能力を身に付けるために「文章を図式化する学習活動」を設定し効果的な指導の在り方について研究する。

II 研究仮説

国語科の「読むこと」の学習において、説明的な文章を「図式化」する学習活動を通して

- ① 読みを「可視化」し、正確に内容を理解することができるだろう。
- ② 説明的な文章を読むことへの興味や関心、意欲を高めることができるだろう。

III 研究内容

1 「正確に理解する資質・能力」を育む「読むこと」の指導について

(1) 「読むこと」における「正確に理解する資質・能力」とは

学習指導要領において、国語科の目標は以下のように示されている（表1）。

表1 「中学校学習指導要領 国語編 国語科の目標」

| | |
|---|--|
| 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | |
| 知識及び技能 | (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 |
| 学びに向かう力、人間性等 | (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を育てる。 |

「言葉による見方・考え方」のイメージについて、「中央教育審議会（2016）」では、「自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること」と述べられている。

文章を読むときには、まずそこで使われている言葉の意味や働き、関係性を文脈の流れの中で適切に捉えることで、言葉で構成された文章の全体像を把握し、書き手の伝えたいことを理解する。

このことを踏まえ、本研究では「読むこと」における「国語で正確に理解する」ことを、「言葉の意味を理解したうえで、言葉や段落間等の関係性を捉え、書き手の伝えたいことを正確に受け止めること」と捉え、実践研究を進めることとする。

(2) 「読むこと」の指導について

解説国語編では、国語科の改訂の趣旨および要点の一つとして、PISA（平成24年実施）の結果から「情報科の進展に伴い、特に子供にとって言葉を取り巻く環境が変化する中で、読解力に関して改善すべき課題が明らかになった」と述べ、国語科の「思考力、判断力、表現力等」の目標の内容のうち「C 読むこと」の指導事項は学習過程に沿って「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成、共有」の3つで構成された（表2）。

表2 「学習指導要領 国語編 国語科の目標及び内容 3〔思考力、判断力、表現力等〕の内容」

| 学習過程 | 示す内容 |
|-----------------------------|---|
| 構造と内容の把握 (説明的な文章・文学的な文章) | 叙述に基づいて、文章がどのような構造になっているか、どのような内容が書かれているかを把握すること。 |
| 精査・解釈 (内容・形式) | 構成や叙述などに基づいて、文章の内容や形式について、精査・解釈すること。 |
| 考えの形成、共有 | 文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成すること。 |

① 「構造と内容の把握」と「精査・解釈」

解説国語編では、C 読むこと「構造と内容の把握」「精査・解釈」の各学年の内容について系統表にまとめている（表3）。

表3 「解説国語編」C 読むこと「構造と内容の把握」「精査・解釈」

| | (中) 第1学年 | (中) 第2学年 | (中) 第3学年 |
|----------|---|---|--|
| | (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | | |
| 構造と内容の把握 | ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。 イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。 | ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。 | ア 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。 |
| 精査・解釈 | ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面を結び付けたりして、内容を解釈すること。 エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。 | イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりし、内容を解釈すること。 ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて解釈すること。 エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。 | イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。 ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。 |

解説国語編には、「構造と内容の把握」は「叙述を基に、文章の構成や展開を捉えたり、内容を理解したりすること」、「精査・解釈」は、「文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて意味付けたり考えたりすること」と述べられている。本研究では、「構造と内容の把握」は説明の順序や文章の題材などの基本的な内容を理解すること、「精査・解釈」は筆者の説明の工夫などにも着目し、目的に応じた視点でさらに理解を深めていく学習過程だと捉える。

② 「考えの形成、共有」

学習指導要領の「学習内容の改善・充実」について、富山(2017)は「〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、学習過程を一層明確化するとともに、各学習過程で育成を目指す資質・能力が明確になるよう内容の改善が図られた。また、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、『考えの形成』に関する指導事項が位置付けられた。」と述べている。

「考えの形成」について解説国語編では、「文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する」と述べられている。三浦(2017)が「ここでの『文章を読んで理解したこと』は、『構造と内容の把握』と『精査・解釈』の学習過程を通して理解したことを指している。」と述べているように、「考えの形成、共有」で自分の考えを確かなものにするためには、文章の「構造と内容」を捉え、「精査・解釈」することを通して理解する必要がある。

中高校生の読解力を調査した新井(2019)は「読解力」を「文章の意味内容を理解する」と捉えたうえで、「中学校を卒業する段階で、約3割が(内容理解を伴わない)表層的な読解もできない」「学力中位の高校でも、約半数が内容理解を要する読解はできない」と述べている。

これらのことを踏まえ、本研究では「考えの形成、共有」へ向けての第一段階である「構造と内容の把握」「精査・解釈」の学習過程において、生徒一人ひとりに「文章を正確に理解させる」指導を実践する。

2 説明的な文章を「図式化」する学習活動について

(1) 説明的な文章を学習する意義

説明的な文章について、古賀（2019）は、「記録文や説明文、論説・評論文といった、いくつかの文章ジャンルの総称である。」とし、「特に、中学校教材では、物事の原因や仕組みを説明した後に、それを踏まえて、社会的・人間的な問題を解決するための行動や考え方を主張するものが多い」と述べている。説明的な文章を読むことで、読み手は筆者の論理や考えに対して検討し、そこから自身の考えを広げたり深めたりしていくことができる。

説明的な文章を学習する目的について、笠井・田中・中村（2018）は「①大量に溢れ出る情報に押し流されないで、適切に判断し行動する自立した言語生活を送る。②多様な立場や意図によって発信される情報の背景を捉え、多様な価値観や考え方を受け止めながら、互いに理解し共に生きることを実現する言語生活を送る」言語生活者として生きることにあるのではないかと述べている。

このことから今日の高度情報化社会において、大量の情報に飲み込まれることなく生きていくためには、自立した言語者として多様な価値観を持った人々と理解し合うことが大切であると考えられる。子どもたちは説明的な文章を学習することを通して、様々な立場の多様な価値観や考え方に触れることができ、理解していく学習活動を通して自立した言語者としての資質・能力を身に付けることができる。と考える。

その効果的な指導の一つとして、文章の図式化の有用性を検討する。

(2) 文章を「図式化」することの効果について

図式は、物事の間接関係をわかりやすく説明するために書いた図のことである。「解説国語編」に「情報と情報との様々な関係を図式化するなどして整理することにより、複雑な関係を把握したり自分の思考を明確にしたりすることを求めている」と述べられているように、文章を図式化することは、読み手が自分の読みを可視化して読みや思考を深めるための有効な手段の一つである。と考える。

学習方略としての「図式化」の機能について辻村（2017）は、「『可視化』することで、学習者どうしが思考過程を共有することができる。さらに、学習者が読みの曖昧さや読み間違いに気づくことを容易にし、補完し合うことを促すことが可能になる。」と述べている。

文章を読んで理解しようとしたとき、頭の中で言葉を整理しても自分がどの程度正しく読んでいるかは把握しづらい。しかし、図式化することで読みが可視化され、「どこに気付けたか」「どこを見落としたか」を認識しやすくなる。また、自分の読みを他者と共有することで、他者との対話を通して文章の理解を深めることも可能になる。このことから、文章を「図式化」することは、文章を理解して考えを深め合うために効果的な学習方略である。と考える。

(3) 「図式化」の方法

これまでの国語科の授業においても、文章や思考を「図式化」する取り組みは行われてきた。光村図書『中学校 国語』には、「思考の地図―思考の旅に出かけよう」という資料名で、思考を広げたり整理したり深めたりするための方法として、ベン図やマッピング等、複数の図式化の例を載せている。その中の一つ、ステップ・チャート（図1）は、矢印と囲みを用いて、物事の順序や流れを整理するときに用いる図式である。『国語1』では、情報整理の一つの例として載せている。

ステップ・チャートは、文章中の言葉や情報を順序立てて整理することで、内容を理解することに役立つ図式である。読み手は文章の内容を叙述の流れに沿って囲みの中に入れることで構造と内容を把握する。また、図式の特性上、文章の中から内容の把握のための情報は短く取り出す必要があるため、読み手は内容理解のために必要な言葉を選ぶ。この一連の学習活動が「構造と内容の把握」と「精査・解釈」の学習過程である。

右から左へ順序立てて整理していく一般的なステップ・チャートの思考の流れは、国語の教科書の文章の流れと同じであるため、話の流れに沿って内容をまとめるときに、情報の整理がしやすいと考える。

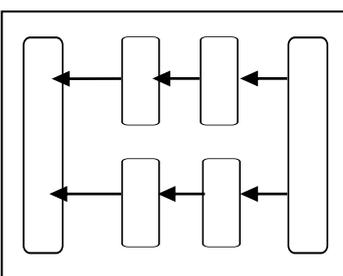


図1 ステップ・チャート

IV 検証授業

1 単元名

「『比喩の魅力』を考えよう」

2 教材名

「比喩で広がる言葉の世界」森山卓郎（『中学校 国語1』光村図書）

3 単元設定の理由

(1) 教材観

本教材は、中学校で学習する説明的な文章としては3つめの教材で、「詩の世界」と緩やかにつながりをもちながら補完し合うものとして構想された文章である。詩を一つ一つ解説するのではなく、知識としての表現技法に終始するのではなく、生徒が詩や詩の中の言葉に興味をもつための一つの切り口として「比喩」を提示している。本文の中では「比喩」の効果を具体例とともに二つ挙げ、比喩が言葉を豊かにする表現技法だということを読み手に伝えている。比喩は小学校で既習の表現技法であるが、日常生活の中にも比喩的な発想による表現が多いということを生徒はあまり意識していないだろう。そのため、本教材を読んで改めて比喩の働きについて理解することで、生徒は言葉についての考えを深め、文章を読む意義や価値についても意識するきっかけになると期待する。

文章の構成は、初め・中・終わりの三段落構成となっている。複雑でない構造なので、ステップ・チャートを活用した図式で内容を整理するときには大まかな流れを捉えやすいと考える。また、段落冒頭には「このように」「したがって」などの接続する語句が使われていることが多く、段落相互の関係が捉えやすい。

(2) 生徒観

これまでの説明的な文章の学習では、「？」や「なぜ」などの言葉に注目して、問いと答えを手掛かりに文章の中心的部分を捉えることはできていた。その一方で、形式段落ごとに捉えた内容を複数結び付けて、意味段落ごとの内容や段落の役割を捉えることには時間がかかった。また、「これに対して」「いっぽう」などの接続する語句から、比較していることは捉えられても、何とどのように比較しているかなど、文章同士や段落同士の関係を捉えることには時間がかかる生徒もいる。

学級にはお互いの発言を認め合う雰囲気があり、自分の考えや気持ちを堂々と発表できる生徒もいるが、自分の考えに自信がなくノートの記述をすぐに消してしまう生徒もいる。

事前に行った国語に関するアンケートによると、「文章を読むことは好きですか」という質問に「好き・まあまあ好き」と答えた生徒は21名（66%）に対し、「説明的な文章を読むことは好きですか」という質問に「好き・まあまあ好き」と答えた生徒は14名（44%）であった。「説明的な文章を読むこと」を「好き・まあまあ好き」と答えた14名の生徒の理由で一番多かったのは「内容がおもしろいから」が12名（86%）で、「あまり好きではない・好きではない」と答えた18名の生徒の理由で一番多かったのは「内容がわかりにくいから」が11名（61%）だった（複数選択）。このことから、本単元を通して図式化という学習方略を使って文章の内容を理解できるようになれば、生徒は説明的な文章を読む意義や価値に気付くことができ、興味・関心が高まるのではないかと期待する。

(3) 指導観

文章を読むことの目的は、その内容を正確に理解したうえで、自分の考えを広げたり深めたりすることにある。今回は「①比喩を使った表現と使わなかった表現を比較する②身の回りにある比喩の発想が生かされた言葉を見つける」という言語活動を通して、生徒一人ひとりに筆者の意見に対して自分の考えをもたせたい。

筆者の意見に対して自分の考えをもつために、本研究では「図式化」を使って文章の理解に役立てる。「図式化」は、形式段落などの小さなまとまりごとの内容はできても、それらを適切に関係付けて文章全体の内容を捉えることが苦手な生徒にとって、理解の手立ての一つになると考える。文章を図式化する学習には慣れていない生徒がほとんどなので、単元の初めに既習教材を用いて図式化を行う。「図式化」するときには、その形（まとめ方）の正解は一つではないということを生

徒に伝えることを留意する。人はそれぞれ自分にとって理解しやすい思考の整理の仕方がある。そのため、文章を図式化するときにも、できるだけ簡略にまとめようとする生徒もいれば、文章の細部にも注目してまとめようとする生徒もいると予想する。生徒一人ひとりが自分なりの「文章の内容をわかりやすく整理した図式」をまとめることで、文章の理解に役立ててほしい。

4 単元の指導目標

(1) 単元の目標

| | |
|-------------|--|
| 知識・技能 | ①比喩表現の技法を理解して使うこと。(1)オ ②原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア |
| 思考力・判断力・表現力 | ①文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。C 読むこと(1)ア ②目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面の描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。C 読むこと(1)ウ |
| 学びに向かう力・人間性 | 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 |

(2) 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|---|
| ①比喩表現の技法を理解したうえで、適切に使っている。 ②主張と例示の関係を捉えている。 | ①「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分を捉え、要旨を把握している。C(1)ア ②「読むこと」において目的に応じて必要な情報に着目し、要約している。C(1)ウ | 言葉を通じてよりよい表現について考え、言葉がもつ価値について気づき、言葉を適切に使おうとしている。 |

(3) 単元の指導計画・評価計画(全4時間)

| 時 | 学習活動 ○めあて | 指導上の留意点 | 評価規準 |
|---------|---|--|---|
| 1 | ○学習の見通しを持ち、図式化にチャレンジしよう。 ①題名読みをする。 ②学習の見通しをもち、単元のゴールを確認する。 ③文章を図式化した例を見て、図式化のよさについて考える。 ④「ちょっと立ち止まって」の内容を図式化する。 | 単元のゴール：『『比喩の魅力』を考えよう』 ・「比喩」の働き(考えや情報を伝える、人間関係を築く、など)を確認し、「比喩」について考えを深めることに意味を持たせる(①)。 ・文章を図式化した例を提示し、図式化によって長い文章の内容が一目でわかることを伝える(③)。 ・既習の教材を使って実際に図式化することで、図式でのまとめ方に慣れさせる(④)。 | [知識・技能] ②主張と例示の関係を捉えている。(観察・ワークシート) |
| 2 | 「比喩で広がる言葉の世界」 ○各段落の大事なところをまとめよう。 ①本文を読み、形式段落の番号をふる。 ②形式段落ごとに書かれている内容を読み取り、ノートにまとめる(個)。 ③まとめたことを全体で確認する。 | ・各形式段落で述べられている内容を捉えるために、接続語や文末表現への注目を促す(②)。 ・うまくまとめられない段落はとばしてもよいとして、要点が捉えやすい段落からまとめさせる(②)。 ・段落ごとの内容を板書して、筆者の主張が書かれた段落を確認し、次時へつなげる(③)。 | [思考・判断・表現] ①文章の中心的部分と付加的な部分を捉え、要旨を把握している。(観察・ノート) |
| 3 本時 | ○文章全体の内容を整理して捉えよう。 ①前時でまとめた形式段落ごとの内容を確認する。 ②ステップ・チャートを使って、内容を整理する(図式化)。 ③グループで交流する。 | ・前時の振り返りをし、筆者の主張が書かれた段落をステップ・チャートのゴールに設定する(①)。 ・ステップ・チャートを活用することで、叙述の流れに沿って必要な情報を取捨選択させる(②)。 ・交流を通して、読みの間違いや不十分な点に気付かせる(③)。 | [知識・技能] ②主張と例示の情報を捉え、関係づけている。(ワークシート) [思考・判断・表現] ②目的に応じて必要な情報に着目し、要約している。(観察・ワークシート) |

| | | | |
|---|---|--|--|
| 4 | <p>○筆者の考えをふまえ、「言葉」について自分の考えをまとめよう。</p> <p>①前時の学習を振り返る。 ②教科書P76の図を言葉で説明し、比喻を使うときとそうでないときの表現の違いを考える。 ③身の回りにある比喻の発想が生かされた言葉を見つける。 ④筆者の意見について、自分の考えをまとめる。</p> | <p>・本文で述べられていた比喻の効果と使い方についての理解を確かめる(①)。 ・比喻があることで表現にどのような変化があるか、比較する視点を与える(②)。 ・比喻の発想が生かされた言葉から比喻を除いたときの、それぞれの言葉の印象や伝わり方の違いを考えさせる(③) ・実際に自分が表現して考えたことや感じたことを根拠にして考えさせる(④)。</p> | <p>[知識・技能] ①比喻表現の技法を理解し、伝えたい情報を他のものにとえて表現している。(観察・ワークシート) [主体的に学習に取り組む態度] 言葉を通じてよりよい表現について考え、言葉がもつ価値について気づき、言葉を適切に使おうとしている。(観察・ワークシート)</p> |
|---|---|--|--|

5 本時の指導 (3/4時間)

(1) 本時の指導目標

文章から必要な情報を取り出し、適切に結び付けて内容を理解することができる。

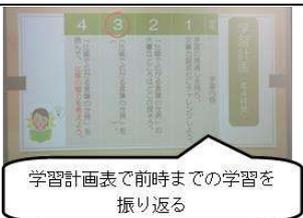
(2) 授業仮説

国語科の「読むこと」の学習において、説明的な文章を「図式化」する学習活動を行うことで、読みが可視化され、情報同士の関係が整理できる。その後、可視化された読みを交流する活動を通して、読みの補完が行われ、正確に内容を理解することができるだろう。

(3) 本時の評価規準

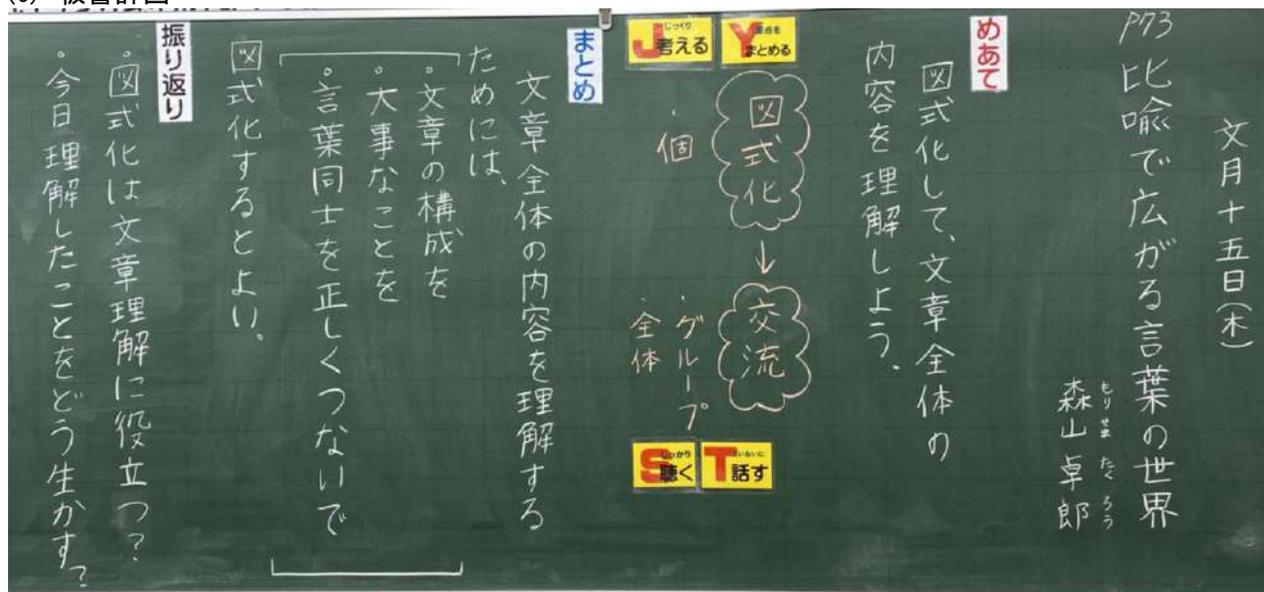
- ① 主張と例示の情報を捉え、関係づけている。
- ② 目的に応じて必要な情報に着目して情報同士の関係を捉え、適切に結び付けている。

(4) 本時の展開

| 段階 | 学習活動 | ○指導上の留意点 □予想される児童生徒の反応 | [評価規準] ◆検証の視点 |
|---------------------|--|--|---|
| 導入 5分 | <p>1. 前時の振り返りと本時のめあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">単元のゴール：『『比喻の魅力』を考えよう』</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">めあて：文章全体の内容を整理して捉えよう</div> | <p>○本時のめあてや学習の流れを確認し、見通しをもたせる。</p> |  |
| 展開 前半 15分 | <p>2. 文章の図式化について確認する</p> <p>3. 文章を図式化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張が書かれた段落を確認し、ステップ・チャートの一番後ろの囲みに書き込む。 ・必要な情報を取り出し、ステップ・チャートの形式で文章の内容をまとめる。 <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">前時のノートを見ながら、大事な文や言葉を抜き出して図式化する</div> | <p>○単元の導入で生徒が取り組んだ図式化の例を電子黒板に提示して、再度確認する。</p> <p>□どの段落の内容を書けばいいか。</p> <p>○言葉の定義や例示など、筆者の主張を導くための必要な情報に着目するよう指示する。</p> <p>○すべての段落の内容を取り上げなくてよいと伝える。</p> <p>○手が止まっている生徒は前時のノートを見るよう指示し、大事な段落や言葉と一緒に確認する。</p> | <p>[知識・技能] ②主張と例示の情報を捉え、関係づけている。 [思考・判断・表現] ②目的に応じて必要な情報に着目して情報同士の関係を捉え、適切に結び付けている。</p> <p>◆図式化することによって、必要な情報に着目して情報同士を結び付けられているか、確認する。(ワークシート)</p> |

| | | | |
|------------|--|--|---|
| 後半 20分 | <p>4. 交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめたものをグループで読み合い、取り出した情報や言葉のつなげ方について、考えを伝え合う。 ・グループの中で一番分かりやすい図式を選ぶ。 <p>5. 共有</p> <p>複数のキーワードをまとめると分かりやすいね</p> <p>構成にも注目すると意味段落同士の関係がはっきり分かるね</p>  | <p>□自分のまとめ方と違う。</p> <p>○筆者の主張を理解するために必要な情報は抜けていないか、情報同士のつながりは適切かなどを確認させる。</p> <p>○必要な情報同士の関係が適切に結びつけられていれば、表し方は様々であってよいとする。</p> <p>○図式化できなかった生徒は、友達のものを参考にして書いてもよいと助言する。</p> <p>○生徒たちが「分かりやすい」と感じた図式のワークシートを電子黒板に写し、共通点や相違点を考える。</p> | <p>◆交流を通して情報同士の結び付け方の適切さなどについて考えているか、確認する。(観察、ワークシート)</p> <p>大事なところを短く抜き出したらいいね</p>  <p>じゃあ、大事なところはどこかな?</p> |
| まとめ 10分 | <p>6. 本時のまとめ</p> <p>7. 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図式化は内容を理解することに役立つのか。 ・理解した内容を次回の言語活動でどのように活かすか。 | <p>○図式化を通して適切に言葉同士を結び付け、内容を理解することができたか、確認する。</p> <p>○振り返りの視点を示すことで、今日の学習の成果を実感させる。</p> | <p>◆文章の図式化は理解の手立てになっているか。(観察、ノート)</p> |

(6) 板書計画



V 研究の結果と考察

説明的な文章を「図式化」する学習活動について、研究の考察は、検証前後のアンケート・テスト、ノート・ワークシートの記述、授業観察を基に行った。

1 文章の内容を正確に理解することはできたか（検証授業より）

(1) 図式化の学習過程での理解

文章を図式化することは生徒にとって初めての学習活動だったため、本単元では1時間目に既習教材「ちょっと立ち止まって」の内容を図式化する活動を行った。1時間目の振り返りでは、「説明的な文章が図式化したらわかりやすくなった。」「図式化することで内容をさらに理解することができた。」という記述が見られた。

資料1は生徒Aの1時間目と3時間目のワークシートである。1時間目は本文の3つの「見え方」の具体例を抜き出して図式化しているが、「見え方」から述べられた筆者の考えについては書かれていない。

しかし、3時間目では、筆者の考えを中心に、3つの意味段落の内容を自分で文章にまとめて図式化している。さらに、それぞれの文章の上に「比喩の意味について」「比喩の効果について」「身近な比喩について」と短いタイトルをつけることによって、それぞれの意味段落にどのような内容が書かれているかが一目で分かるように工夫している。

始めに既習教材を図式化することで、生徒はステップ・チャートの意味を理解することができ、それを土台として、本教材の構成や言葉同士の関係性に着目して文章を理解し、意味段落ごとのまとまりを捉えることができたと考える。

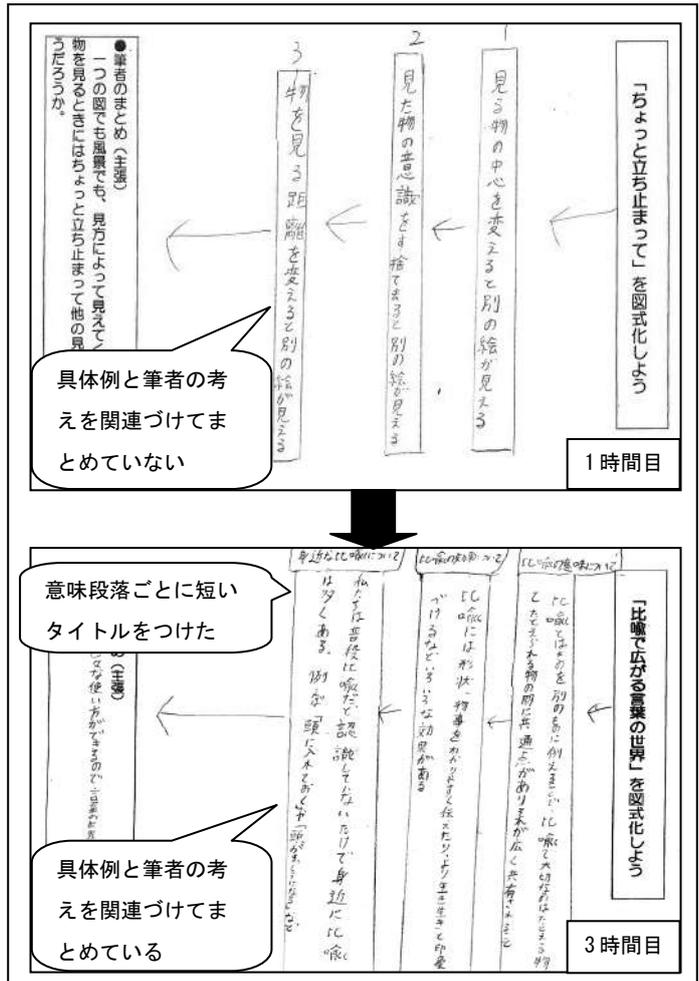
資料2は生徒Bの3時間目のワークシートである。生徒Bは「比喩の効果」「比喩の大切なこと」「比喩の発想」というキーワードごとに、ステップ・チャートとは違った形で内容を整理していた。

生徒Bは、矢印などで意味段落相互の関係性を記述できていないという課題はあるものの、形式段落の要点を理解し、意味段落の内容をまとめることはできていた。

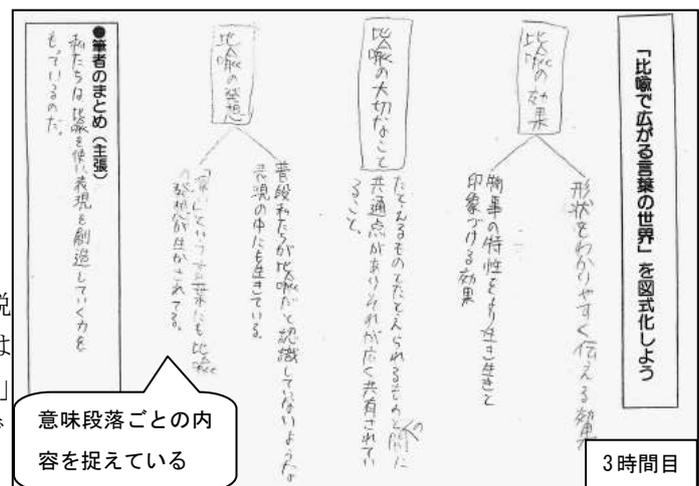
これまで、形式段落ごとに捉えた内容を複数結び付けて意味段落ごとに内容を捉えることには時間がかかる生徒も、図式化することで「内容を理解するために必要な言葉」を意識して探すようになったことで、より早く意味段落の内容を捉えることができたと考える。

単元終了後に行ったアンケートでは、「説明的な文章を理解するために、『図式化』は役立つか。」という質問に対して、「役立つ」「まあまあ役立つ」と答えた生徒は97%であった。これは、図式化を通して生徒自身が「読めた」「理解できた」という手応えがあったためだと考えられる。

生徒は図式化する際に、意味段落ごとのまとまりやキーワードを囲んだり、言葉や文を矢印でつないだりして、文章の内容を整理していた。そうして読みを可視化することにより、文章の構成や内容を理解するために大事な言葉などに気づくことができるため、図式化の過程で正確な理解ができたと考える。



資料1 生徒Aの1・3時間目のワークシート



資料2 生徒Bの3時間目のワークシート

(2) 交流活動による理解

本単元では、1時間目と3時間目に図式化の交流活動（グループ・全体）を取り入れた。

グループの交流活動では、「大事な文章をどう抜き出していいかわからなかったけど、大事なところだけ短く抜き出せばいいんだ」「じゃあ、大事なところはどこ？みんな書いているから、ここかな？」と話し合う様子が見られた。

全体での交流活動では、生徒が「内容をしっかり理解している」と感じた図式化のワークシートを電子黒板に映し、そのよさについて生徒に発表してもらった（資料3）。そのとき、生徒の発表の後に教師からもまとめ方の工夫を補足説明して、価値づけをした。交流後には「〇〇さんみたいに複数のキーワードをまとめるともっと分かりやすいね」

「〇〇さんみたいに構成にも着目すると、意味段落同士の関係がはっきり分かっているな」という発言が見られた。

今回の図式化はステップ・チャートの形を基本としたが、できるだけ教師が枠を作らず、生徒が自分なりにまとめ方を工夫できるようなシンプルなワークシートを作成した。そのため、個人で書いた図式化はそれぞれ抜き出した言葉や言葉同士のつながり方が違っていった。それぞれの図式化に違いがあることで交流が活発になり、お互いの図式化の共通点や相違点について対話する中で、必要な言葉や言葉同士の関係付けの適切さなどについて生徒は考えることができたと推察する。

このことから、図式化によって読みを可視化することで、生徒同士はお互いの読みを知ることができ、交流の中で対話を通してお互いの読みを補完し、正確な理解へとつながったと考える。

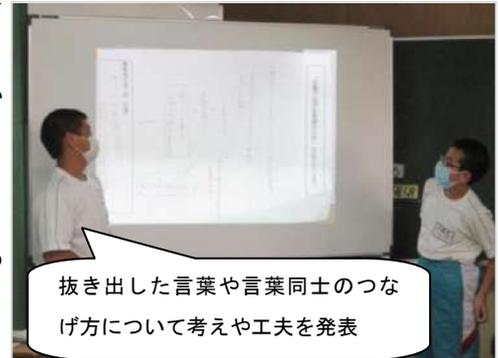
(3) 「考えの形成、共有」への効果

本単元では4時間目に「考えの形成、共有」の学習過程として「筆者の考えをふまえて『比喩』について自分の考えをまとめる」学習活動を行った（資料4）。生徒Cは、筆者の考えを正確に受け止めたうえで、身近な比喩の表現に気づき、生活の中で色々なことを分かりやすく伝えるために比喩を生かしていきたいという考えを書いていた。

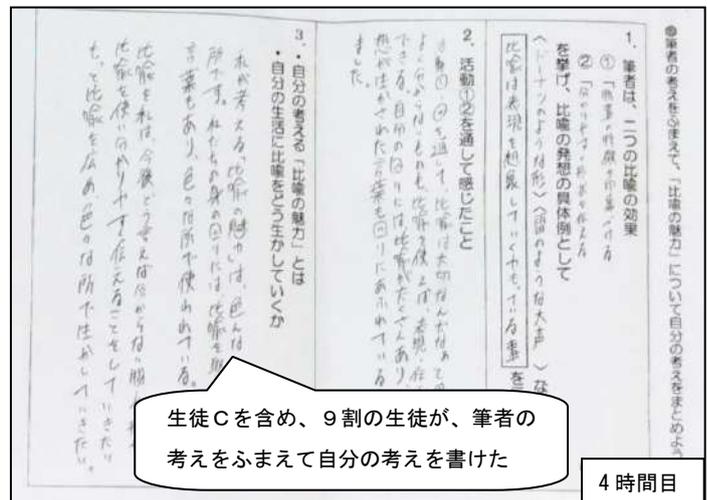
これまででは、自分の考えに自信がなく、ノートに記述してもすぐに消してしまったり、発言することをためらったりする生徒が複数いたが、本時では約9割の生徒が、筆者の考えをふまえて自分の考えを書くことができた。書けなかった1割の生徒についても、授業中に自分の考えを教師に話すことはできていたので、今後は文章化できるようにしていきたい。

生徒Dは4時間目の振り返りに「『比喩で広がる言葉の世界』は言葉も難しいし、意味が分からないと思っていたけど、3時間目の（図式化の）授業をやる意味が分かったし、（比喩は）おもしろいと思った。」と記述していた。内容を理解したことで自分の感想や考えに自信を持ち、「分かった」という実感へつながったと考える。

「図式化」は、文章の要旨を短くまとめて結び付けて整理するという特性から、その過程で生徒は文章の要旨や言葉同士のつながりの適切さ、説明的な文章の理解にとって大切である構成に着目して文章を読もうとする。そして、図式化によって可視化された自分の読みの正確さについて、他者との交流を通してお互いの読みを補完することができるから、生徒は図式化を



資料3 全体交流で発表する生徒



資料4 生徒Cの4時間目のワークシート

通して文章の内容を正確に理解することができたと考える。

また、生徒は文章を正確に理解することで、内容や筆者の考えに面白さを感じたり考えを深めたりする場面も見られたので、正確に理解することは「考えの形成、共有」への効果があると考えられる。

2 文章の「図式化」は生徒の「読むこと」の意欲を高めたか（アンケートより）

本単元を通して、生徒からは「図式化って楽しい」という声をつぶやきが何度も聞こえてきた。

1時間目の授業の中で、既習教材を図式化する学習活動を行った際、生徒Dは教師が声をかけてから図式化に取り組み始めた。しかし、3時間目の授業では、図式化の活動がスタートしたときにすぐ周りの生徒に「図式化、どうやればいい？教えて！」と聞き、その後は何度も教科書や前時までのノートを読み返しながら図式化に取り組んでいた。これは、図式化への興味から、「自分で書きたい」という意欲が高まったためだと考えられる。

本検証では、検証前後に「読むこと」に関するアンケートを行った。検証前アンケートでは、「文章を読むことは好きですか」という質問に対し64%の生徒が「好き」「まあまあ好き」を合わせた肯定的な回答であったのに対し、「説明的な文章を読むことは好きですか」という質問に対しての肯定的な回答は42%と14ポイント低かった。また、「あまり好きではない」「好きではない」と答えた生徒の半数は「内容が分かりにくい」ことを理由に挙げていた。

説明的な文章に対して生徒が「分かりにくい」と感じる理由はいくつか考えられる。これまでの私自身の経験から、その中でも特に、文章の長さや、普段あまり読む機会のない論理的な文章への苦手意識は、多くの生徒が感じていると推測する。

図2はアンケートの「説明的な文章を読むことは好きですか」という質問に対する検証前後の回答を比較したグラフである。

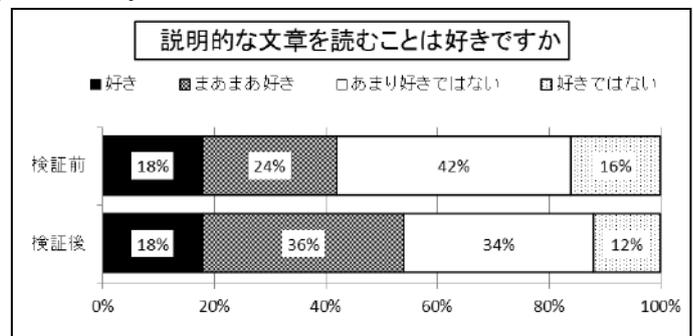


図2 事前・事後アンケート結果

肯定的な回答をした生徒は検証後54%で、検証前42%と比べて12ポイント増加している。

図式化のよさは、物事の間接関係をわかりやすく整理できるところと、決まった答えがなく、自分なりのまとめ方ができるところである。そのため、生徒は長い文章の中から捉えた必要な言葉や情報を、自分にとって「分かりやすく」まとめることができたと考えられる。その結果、生徒は説明的な文章を「自分で読めた・分かった」と感じ、説明的な文章を読むことに対して肯定的に捉えるようになったと推察する。

単元の終末の振り返りの中には「他の説明的な文章や物語も図式化したい」「次はイラストを入れてもっと分かりやすくしたい」という記述が複数見られ、今後も図式化を活用して文章の理解に役立てていこうとする生徒の意欲が窺えた。

このことから、図式化は生徒の「読むこと」の学習意欲を高め、主体的に文章を読むことへの手立てとなったと考える。

3 本授業が説明的な文章を正確に理解することの育成につながったか(検証授業後のテスト結果より)

本検証では、沖縄県の学力状況定着調査「学びのたしかめ」を活用して、説明的な文章に関する設問の正答率を県平均の正答率と検証前後で比較した(表4)。検証前テストが令和2年度6月実施の過去問題で、検証後テストが令和3年度6月実施の問題である。

(1)の設問では、検証前の正答率が県平均より7.8ポイント低かったのに対し、検証後には2.1ポイント低い結果となっており、5.7ポイント増加が見られた。

表4 県平均正答率と本校正答率の差

| 問題番号と設問の領域 | 検証前 | 検証後 | 増加ポイント |
|------------|------|-------|--------|
| 2 (1) 読むこと | -7.8 | -2.1 | 5.7 |
| 2 (2) 読むこと | -1.2 | +8.4 | 9.6 |
| 2 (3) 書くこと | +8.2 | +23.3 | 14.1 |

(2)の設問では、検証前は県平均より1.2ポイント低かった正答率が、検証後には県平均より8.4ポイント高い結果となっており、9.6ポイント増加が見られた。

(3)の設問は文章を読んで自分が気付いたことについて記述する問題であるので、「書くこと」の領域の設問ではあるが、正確に理解することとの関連があると捉える。この設問では、14.1ポイントの増加が見られた。

このように、検証授業前後のテストの説明的な文章に関する設問において、本校生徒の正答率は県平均正答率との比較でポイントの増加が見られた。これは、本検証前後の比較の結果ではあるが、本研究の取組について継続の意義を感じた。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 説明的な文章を「図式化」する学習活動を通して、生徒は言葉同士や意味段落ごとの結び付き方といった読みを可視化することで、内容を正確に理解することができた。
- (2) 生徒は交流の中でお互いの図式の共通点や相違点などについて対話することによって、読みを補完し合うことができた。
- (3) 自分でまとめ方を工夫した図式化の学習活動を通して、生徒の「読むこと」の学習意欲が高まった。

2 今後の課題

- (1) 生徒に図式化の学習に取り組みさせる際、適切に結び付けている必要な情報を判断する規準や、情報同士の結び付け方の適切さについての確認が不十分であった。今後の図式化の学習では、規準や適切さなどを確認し、「分かりやすさ」の価値づけについて生徒と一緒に考えていきたい。
- (2) 本研究では説明的な文章の正確な理解のための図式化について検証したが、他の種類の文章でも活用できると考える。生徒が他教科をはじめ言語生活の中で活用していけるよう、今後も継続して指導の工夫と改善を重ねる。

〈主な参考文献〉

- 全国大学国語教育学会 編集『新たな時代の学びを創る 中学校・高等学校国語教育研究』東洋館出版社 2019年
- 文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』東洋館出版社 2018年
- 日本国語教育学会 監修 笠井正信・田中宏幸・中村純子 編著『説明文・論説文—論理的な思考力を育てる—』東洋館出版社 2018年
- 新井紀子 著『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』東洋経済新報社 2018年
- 富山哲也 編著『平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 国語編』明治図書出版 2017年
- 全国大学国語教育学会 編集『国語科教育 第八十二集』2017年
- 文部科学省 『中央教育審議会答申(第197号)』
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf 2017年5月13日取得